

# 人権なら

2020年6月1日

第114号

NPOなら人権情報センター

●ひと・まち・生き生き

## 総会は6月14日に開催

### 研究集会は9月5日開催に向けて本格準備

新型コロナの感染拡大は、私たちの日常生活を大きく脅かした。格差・貧困が広がる社会にあって、生活や仕事を直撃し、その姿を激変させることとなった。

奈良県内では、5月14日の「県緊急事態宣言」解除を受けて、徐々に日常を取り戻してきている。でも、中小企業者協会には、4月下旬から、中小事業者・小規模事業者、フリーランスを含む個人事業者向けの「持続化給付金」をめぐる、関係者から数多くの問い合わせ・相談が寄せられてくる。職員たちはそうした業務に追われながら、活動を続けている。

NPOなら人権情報センターは5月19日、事務局会議を開催。6月14日に開催の通常総会と、9月5日に開催の第12回「差別と人権」研究集会の企画内容や準備状況について協議した。

### 総会終了後、中田ひとみさんを講師に学習会

第20期「通常総会」は6月14日(日)午後1時30分から、田原本青垣生涯学習センターで開催する。当初は、コロナ感染予防のため、「書面議決」も考えた。だが、5月14日の「宣言」解除を受け、通常の形式で開催することとした。当日は感染防止のため、アルコール消毒剤などを準備する。出席者にはマスク装着をお願いすることとした。



総会終了後の午後3時から、学習会を開く。中田ひとみさん(性と生を考える会代表=写真)を講師に「性的マイノリティーと人権」をテーマにして話を伺う。中田さんは奈良で看護師として働きながら、セクシュ

アルマイノリティが生きづらい世の中は人権侵害にあたるとして、さまざまな活動を続けている。学習会への参加を希望する方は15分前に会場に来てほしい。

### 最首悟さんが「差別と人権」集会で記念講演

第12回「差別と人権」研究集会は9月5日(土)午前9時30分から、田原本町青垣生涯学習センター・弥生の里ホールで、コロナ禍にあっての「人間(いのち)と差別」をテーマにして開催する(写真は今年の研究集会)。



記念講演は最首悟さん(和光大学名誉教授)にコロナ感染が広がる世界—日本について、そして「やまゆり園事件」と、その裁判—死刑判決とどう向き合い続け、思考されてきたのか。この国の今、をどのように考えられているのか、について話をしていただく。

### パネルディスカッションでこの国の今を論議

研究集会では、午後にパネルディスカッションを行う。パネラーとして、高橋年男さん(沖縄精神障害者家族会事務局長)が沖縄での精神障害者「私宅監置」をめぐる調査や取り組みを報告する。また、藤田敬一さん(元岐阜大学教授)が部落解放運動を通して考えてきた部落差別や「人間と差別」について語る。

司会は渡辺哲久さん(社会福祉法人ひまわり常務理事)。山下力さん(NPOなら人権情報センター顧問)も加わり、パネラーへの質問や意見を述べる。

パネルディスカッションでは、パネラーの報告とともに、コロナ禍におけるこの国の今について、最首さんも交えて、活発な議論になることを期待している。

## 米田富さん記念碑を清掃

### 5月4日の命日に合わせて毎年実施

米田富さんの記念碑を5月1日、清掃した。命日が5月4日ということもあって、毎年、この時期に行っている。昨年実施した記念碑周辺の草刈りのあとに、初めて除草剤を散布したためか、ことは思っていたよりも雑草の量が少なかった。



作業中、近所の方が出てきて、「暑いのにご苦労さん」と声を掛けてくれた。「山下さん、まだ元気や」とも。毎年、山下力さんを隊長に続けてきている清掃。この日は、午後2時過ぎから作業を始め、3時半頃に終了。作業後、近所のおっちゃんも一緒に記念撮影した。

### 在りし日の思い出話に米富精神を学ぶ

記念碑の建立は1994年5月4日の7回忌に部落解放センターで催された「故米田富さんを偲ぶつどい」で決まった。師岡佑行さん、西岡智さん、土方鉄さん、藤田敬一さん、佐々木一行さん、福田雅子さん、山下力さんの7人が呼びかけた「つどい」には、185人が参加。7人が語る米田さんとの思い出話を聞いた。

米田さんの中央統制委員長時代の組織問題に対する姿勢、狭山闘争への情熱、水平社創立時のエピソードなど、在りし日の話に花が咲いた。この場で、米田さんのメモリアルを建設することが確認された。

### 13回忌の2000年に碑を建立

13回忌の2000年5月4日、五條市五條の旧宅西側に建立された「米田富翁記念碑」の除幕式と、記念レセプションが盛大に行われた。

記念碑は、生涯を差別との闘いと部落解放運動に捧げた米田富さんを顕彰し、その闘いの遺志を受け継ぐために、米田さんが生まれ育った五條市に高さ3m、幅2.5mの天然石で造られた。

記念碑には、「運動は自己変革から始まるもんや、だから、自己にきびしく、運動には誠実にと、わたしは、闘い続けてきた」と、米田さんが生前、よく口にした文言が刻まれている。作家の土方鉄さんと彫刻家の金城実さんが制作監修した。

### 23回忌には記念碑前で盛大な集い

米田さんの23回忌法要は2010年5月4日、北葛城郡広陵町にある親族宅で執り行われた。5月8日には、記念碑前で23回忌の集いが催された＝写真。

山下力さんは「解放同盟の解散とNPOなら人権情報センターへの移行、反差別人権交流センター（絆）の立ち上げを進めてきたことを、米田富さんはどう思っておられるのか」と、問い掛けた。



集いには、藤田敬一さん、金城実さんも遠方から出席。五條市長や家西悟さん（元参院議員）、前川清成さん（同）らをはじめ、多くの人たちが参列した。

### <米田富さんの足跡>

- 1901年 旧五条町大島で生まれる。
- 1921年 西光万吉、阪本清一郎らと出会い、全国水平社創立準備に参画。
- 1922年 全国水平社創立大会で決議案を提案。
- 1923年 水国争闘を指導。
- 1927年 志都美村小作争議を指導中、白龍会員に刺され、重傷を負う。
- 1933年 高松結婚差別糾弾闘争で請願隊団長を務め、闘いを勝利に導く牽引者となる。
- 1949年 戦後部落解放運動を出発させる。
- 1958年 部落解放同盟奈良県連を再建し、初代委員長に就任。以降、1982年まで務める。
- 1969年～狭山差別裁判糾弾闘争の先頭に立つ。
- 1988年 87歳の生涯を閉じる。



## カンボジアからの風 <19>

新型コロナウイルスの影響が世界中に広がっています。カンボジアでも同じ状況です。久しぶりにカンボジア(ポイペト)の現状を報告します。

### 「クメール(カンボジア)正月」は4月13日

カンボジアは4月13日20時48分に新年を迎えました。カンボジアには、お正月が3回ある、と言われていいます。1回目は1月1日の「世界のお正月」。2回目は春節「中国正月」。3回目が4月14日前後の「クメール(カンボジア)正月」です。



14日前後としたのは、クメール正月は年によって年明けの日時が変わるためです。カンボジアの人たちにとって一番大切なのは、このクメール正月です。

クメール正月には、7人姉妹の女神のうちの1人が降りてくるとされています。人々は女神の好物(写真)をお供えし、年明けを迎えます。好物は女神によって変わります。人々は年が明けると、お寺に行ったり、親せきが集まって宴会をしたりします。地域によっては水かけをして遊んだりもします。

### コロナによる国境封鎖で生活に影響

カンボジアの人たちは、クメール正月をそれはそれは楽しみにしています。4月に入ると、そこら中で「お正月はどうするの??」という会話が聞こえてきます。

今年のクメール正月の連休は、新型コロナウイルスの感染を懸念して、延期になってしまいました。人々が大移動するのを抑制するためです。保健省の発表によると、カンボジアでは5月12日現在、累計感染者が122人、累計死亡者はゼロ、累計治癒者は120人となっています。

現在、少しずつ街に活気が戻ってきましたが、未だに国境は閉鎖したままです=写真。すべての教育機

関も3月16日から閉鎖されたままです。今現在も再開の目途は立っていません。

観光地シエムリアップは、今までに見たことがないような閑散とした状態が続いています。ほとんどのホテルやレストラン、スパ、お土産物店などは、休業を余儀なくされています。飛行機も国際線、国内線とも、ほとんどが運休しています。



サンタピアップの活動地では現在、感染報告は出ていませんが、国境閉鎖の影響で物価は上昇し、村の人々の生活に影響が出てきています。共同経営している日本食レストラン「国境食堂 HARU」は、何とか休まずに営業を続けられています。

### 自由に行動できない人たちがたくさんいる

今、世界中でたくさんの方が自由に行きたい場所に行けない。会いたい人に会えない。好きなことを好きなだけできない状況に置かれています。

コロナが収まれば、また好きなことができる。会いたい人に会える。好きなことが思いっきりできる。そう奮い立たせて日々を過ごしている人がたくさんいます。私もその一人です。

だけど、ふと思うのです。コロナ以前から、そして、コロナが収まったあとも、おそらく、自分たちの意思とは関係なく、自由に好きな場所に行けない。会いたい人にも会えない。好きなことが好きなだけできない人が世界中にはたくさんいるということ。



そんな人たちに少しでも寄り添いたい。「共に生きる」ということについて考え続けています。それが私の活動の原点でもあるからです。

(NPO法人サンタピアップ代表・古川沙樹)

## 在沖米軍が土壌・水質汚染

### 米軍普天間飛行場から有害泡消火剤が流出

米軍による土壌・水質汚染について「有機フッ素化合物PFAS汚染から市民の生命を守る連絡会」の高橋年男さんに報告してもらった。抜粋して掲載する。

★ ★ ★

米軍普天間飛行場(沖縄県宜野湾市)から4月10日の夕方、有機フッ素化合物(PFAS)泡消火剤が流出した。基地フェンスから住宅街までの排水溝は、あふれ出した泡で埋まった。隣接する保育園のお迎え時間と重なった保護者の多くが現場を目撃した。折からの強風に煽られて泡は飛散。付近の民家や公民館、公園に降り注いだ。事情を知らない子どもたちは宙を舞う泡に、はしゃいで、両手でつかんだりして喜んだ。

翌朝、宜野湾市消防が緊急出動。水面からバケツリレーで泡を掬い取った。沖縄防衛局の下請け業者は、防御装備も着けないままの素手素足で川に降り、水に浸かりながら泡まみれの草木を刈り取り、ビニール袋に詰め込んで回収。軍作業員はフェンスの内側で、排水口周りの汚染された芝刈りに当たった。

沖縄県や琉球新報社、大学研究者などが現場で

### 編集後記 ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

政治に対する信頼がなくなっている。コロナ禍で一挙に進んだ。政府は初動対応に失敗。その後も人の命や生活を顧みない愚策を連発するだけ。しかも、社会全体がコロナ感染に不安な最中に火事場泥棒よろしく、政府の意に沿う検察人事を策略。自民、公明、維新も利害一致で動いた。これまで野党、国会、メディアを軽んじ、何よりも民意を舐めきってきた。法を無視し、隠蔽、改ざんを図り、民主主義を破壊しまくってきた。くすぶり続けてきた民の不満に火が付いた。数百万もの怒りがツイートされたのだ。もう政治指導者を替えないと私たちの社会は危うい。不要腐朽の政権は廃棄処分をしたい。

採取した汚染水を分析。結果は、国(厚労省、環境省)が4月に定めたばかりの水質暫定指針値50ナノグラム(1リットル当たり)を何倍も上回るものだった。

### 汚染事故の原因究明を阻む日米地位協定

日米地位協定の環境補足協定に基づき、基地に立ち入った国・

県・市は、消火剤が流し去られたあとの排水溝からサンプル水だけを



持ち返った。汚染された土壌は海兵隊によって表面がはぎ取られ、目の前で持ち去られた。

汚染源が米海兵隊普天間基地内であることが明らかになった以上、米軍は沖縄県と宜野湾市、そして専門家を交えた合同調査プロジェクトを発足させ、汚染実態の把握、事故原因の究明、汚染浄化に責任をもって解決にあたるべきではないか。

2020年度米国国防権限法は軍事施設内外のPFAS汚染の曝露と範囲を調査・確定し、飲料水や農業用水の安全、血液検査など公衆衛生の枠組みなどを国防総省から連邦議会に報告することを定めている。この国防権限法か、日本の国内法のいずれかの、より安全性の高い基準を適用して解決するべきだ。

生態系に長期間、残留し、蓄積し続け、命の連鎖を断ち切る永遠の化学物質PFAS汚染は、沖縄の未来を左右する問題である。「雨が降れば、収まるだろう」(デイビット・スティール普天間基地司令官、4月11日)などと、水に流せる話ではない。

### ニュースレター「人権なら」

発行:NPO法人なら人権情報センター

〒636-0223

奈良県磯城郡田原本町鍵301-1

TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833

E-mail:info@nponara.or.jp

http://www.nponara.or.jp/